

[基本教育科目/社会の理解]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
法律と人権	NLA11_015	選択	2	1	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
山崎 英壽	教員控室	kango	Teamsのチャット機能を利用します		
授業の目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsを活用して各人権について説明し、毎回課題に答えることによって人権問題の理解を深め、フィードバックされた論点をもとに再度人権について確認する。 ・日本において憲法改正が政府の側から主張されているが、このことがこの国において立憲主義が定着していないことを示している。立憲主義の原点は人権保障と権力分立であるが、本講義では人権保障について学ぶことにより、社会で起こっている人権問題の解決に取り組む近代的個人になることを目的とする。 ・表現の自由、政教分離、生存権などの人権理論を紹介し、それが現実の裁判ではどのように扱われているかを検討することによって、人権の理解を深める。 				
学習上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・高校までの教育課程で人権について学んだことが基礎となるので、公民、現代社会、政治経済の教科書を見直しておくことと初回の講義の導入に役立つ。 ・各回の授業時にはノートを取り、レジュメの記述を確認する作業が内容理解には必須である。 				
教科書	なし 詳細なレジュメを配布します				
参考書	憲法要諦/著：山崎英壽/文化書房博文社/2018				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	人権の重要性について説明することができる		HSU(1)(2),NS(1)		
②	社会で起こる出来事の問題点を指摘することができる		HSU(4)		
③	人権問題の解決の見通しをつけることができる		HSU(4),NS(2)		
④	人間存在の多様性を認識し他者を尊重する態度を身につける		HSU(5),NS(5)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	[法律と人権の基礎 1]法律の存在意義について学ぶ。	同時双方向型授業	法律の種類を挙げて説明してみる。	4	
2	[法律と人権の基礎 2]人権の歴史と概念を学ぶ。	同時双方向型授業	自由国家と福祉国家の特徴を調べる。	4	
3	[人権総論 1]私人間効力について学ぶ。	同時双方向型授業	国家権力と社会的権力について考える。	4	
4	[人権総論 2]人権主体について学ぶ。	同時双方向型授業	天皇、外国人、法人について考える。	4	
5	[人権総論 3]平等について学ぶ。	同時双方向型授業	女と男の違いについて考えてみる。	4	
6	[精神的自由 1]信教の自由の歴史と概念を学ぶ。	同時双方向型授業	なぜ宗教があるのか考えてみる。	4	
7	[精神的自由 2]信教の自由の判例を学ぶ。	同時双方向型授業	宗教的少数派の存在について考える。	4	
8	[精神的自由 3]政教分離の歴史と概念を学ぶ。	同時双方向型授業	戦前日本の祭政一致について考える。	4	
9	[精神的自由 4]政教分離の判例を学ぶ。	同時双方向型授業	目的効果基準の有用性について考える。	4	
10	[精神的自由 5]表現の自由の意義について学ぶ。	同時双方向型授業	何も言えない社会について考えてみる。	4	
11	[精神的自由 6]表現規制のルールについて学ぶ。	同時双方向型授業	戦前の検閲制度について考えてみる。	4	
12	[精神的自由 7]知る権利について学ぶ。	同時双方向型授業	マスメディアの信用度について考える。	4	
13	[社会権 1]生存権の法的性格について学ぶ。	同時双方向型授業	貧困の起こる原因について考える。	4	
14	[社会権 2]朝日訴訟について学ぶ。	同時双方向型授業	福祉における裁判所の役割を考える。	4	
15	[社会権 3]社会福祉と社会保障の権利を学ぶ。	同時双方向型授業	医療と福祉の異同について考えてみる。	4	
試	期末レポート(1600~2000字程度)				

[基本教育科目/社会の理解]

		達成度評価					
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	各回課題	合計
		0	50	0	0	50	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	10	20
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	10	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	5	0	0	5	10
	コミュニケーション力	0	5	0	0	5	10
	取組みの姿勢・意欲	0	5	0	0	5	10
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	10	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
レポート	①	✓	論述レポートのため、文章力、日本語表現力は重要である。講義を理解していることを正確に伝達することが必要。 人権理論とその実例である判例を理解しているか、人権が保障される社会の構築のために何が必要であると考えているか、現代社会の問題の中に人権問題があることを理解できているかが試される。				レポート提出締め切り1週間後をめどにTeamsで採点講評する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
各回課題	①	✓	200字程度の文章で考えを述べてもらうので、短い文章で考えを相手に伝える能力が大事。各回の重要な事項を理解できているかを試します。				Teamsの課題機能を使って毎回フィードバックします。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
備 考							
人権は憲法学の一分野であるから、授業内容は法学部で学習する内容とほぼ同じである。医療・公衆衛生に興味を持っている学生には関心の薄い分野であるかもしれないが、国民の健康を守ることも広い意味での人権である。人間が大切にされる社会をいかにつくるかということに興味を持って取り組む学生の履修を歓迎します。 Teamsを使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限のWi-Fi環境を推奨します。また、社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性があります。							